SCJ 58. Vietnam

<特集>ベトナムの赤ちゃんとお母さん











お母さんと子ども　2010年9月　クアンチ省フォンホア郡、ダクロン郡にて

「母乳で子育て、楽しいわ！」

～そう言う母親と、丈夫な子どもが増えることを目指して～

いつもご支援をありがとうございます。
今回は、子どもの栄養不良を改善する取り組みについてお伝えします。
経済成長で食料の供給が増え、様々な栄養を摂れるようになったベトナム。
ですが、少数民族が暮らす農村部では、子どもの栄養不良率が28.5％と、都市部の16.4％を大きく上回ります。*
この問題を解決するため、私たちＳＣは、母乳育児を推進しています。
生後６ヶ月間、栄養たっぷりの母乳だけで赤ちゃんを育てること。私たち日本人にとって当たり前でも、
それが習慣でなかった少数民族にとっては、なかなか難しいことです。
ご紹介するのは、2009年の寄付キャンペーン「OPPAI PROJECT（オッパイプロジェクト）」の支援地、
クアンチ省の村々での活動の様子です。農作業や家事と両立させながら、新しいことを一生懸命に、
そして楽しく学ぶお母さんたち。子育てに関して、まだピンとこないけれど、
女性をサポートしなきゃと意識が芽生え始めたお父さんたち。そして、村の様子を温かく、
そして辛抱づよく見守る現地スタッフたち…。
みんなみんな、子どものために一生懸命！そんな姿を次のページから、お届けします。



＊：ベトナム国立栄養研究所による
ＳＣは、セーブ・ザ・チルドレンの略です。ＳＣＪは、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの略です。

トラム村のお母さん研修と、研修をひっぱるザンさんの話。

「母乳育児をひろめるために、私たち女性が一致団結よ！」

「この村に母乳育児をなんとか根づかせたい」クアンホア省フォンホア郡のトラム村で、お母さん研修のリーダーを務めるホー・チー・ザンさん（27歳）。二児の母親である彼女は、母乳を1ヶ月でやめた上の子と、6ヶ月つづけた下の子の健康状態の違いにおどろいているそうです。「上の子は大きくなっても咳や下痢をしやすいのに、下の子は、そういった病気にならないんです」研修では、自分の経験をもとに、年下の参加者たちを熱心に指導します。

お母さん研修は月2回、保健師の家に集まって開かれます。毎回1つのテーマを取り上げ、ザンさんが一通り説明した後、参加者たちが学んだことを実践し、その場で母乳を与えたりもします。「家で赤ちゃんがなかなかお乳を飲んでくれないの」「病気のときは母乳をあげない方がいいの？」そういった悩みや質問にもザンさんは丁寧に応え励まします。「育児は根気が大切よ」



このトラム村には、141世帯のバンキュー族が暮らし、約40％が貧困家庭です。ですから、女性が長期間、家で育児に専念することは、まだまだ難しいことのようです。「この前、参加者の一人の家で、お姑さんが怒り出したんです。嫁が働きに出ないって。その時は、研修の仲間みんなで家に行って、母乳育児の大切さを伝え、なんとか説得しました。こんな風に、周りの理解も得るために、みんなで村を奔走しています！」そうザンさんが語ると、女性たちが大笑い。新しいことにチャレンジする彼女たちの清々しい姿が、なんとも素晴らしく感じられました。

＜ お母さん研修に参加する女性と子どもたち ＞



女性3世代。
理解あるお姑さんのおかげで赤ちゃんもスクスクと。





研修で学んだことを、復唱する参加者。

「この子はどうしても母乳が飲めないの」と心配するお母さん。



ザンさん

49歳で3人目の赤ちゃんをさずかったトレムさんの話。

「私が研修に参加する理由。それは…」



妻のヌンさんと息子のダンくん



トレムさん

私たちは、子育てに対する男性の理解を得るために、お父さん研修も開いています。その研修の参加者の一人、ホー・ヴァン・トレムさん（50歳）。妻のホー・チー・ヌンさん（39歳）との間に、17歳、13歳、そして生後6ヶ月の子どもがいます。

「一番下の子の妊娠が分かったとき、妻はもう40歳近いから、母子ともに健康でいられるかなって、とても心配になりました。その時、お父さん研修がはじまる知らせを保健所からもらい、自分に何かできることはないかと思って、参加しはじめました。」研修を受けはじめて2ヶ月後、ヌンさんはダンくんを無事に出産。ダンくんは初乳から6ヶ月間ずっと母乳を飲み、大きな病気をせずスクスク育っているそうです。

「お父さん研修に出ると、他はみんな若いからね。人生の先輩として、私たち少数民族の子どもも、栄養をたくさん摂って、街の子どもと同じくらい立派に成長してくれたらなと願っています。村の底上げを自分なりにやりたいんです」



＊：2010年9月の年齢。

＜ トレムさんの住んでいるところは、こんな所です。＞



家の中。囲炉裏で炊事をします。



トレムさん一家が暮らす高床式の家。



トレムさんはコーヒーを栽培して生計を立てています。



村の看板。「赤ちゃんを大切に育てましょう」と書いてあります。



フォンホア郡の入り口。バンキュー族はベトナム中部の高原地帯に暮らしています。

少数民族の言葉を自分で覚え、母乳育児を指導するヒエンさんの話。

「私たちの地域を長い目で見守ってほしいです」

「パコーの女性たちは、栄養のことをベトナムで一番分かっているんじゃないかな」真剣な顔つきで話し始めたチャウ・ヴァン・ヒエンさんは、ベトナムで最も貧しい地域の1つ、クアンチ省ダクロン郡の保健所の所長であり、私たちと母乳育児を広める大切なパートナーでもあります。ヒエンさんは少数民族のパコー族から慕われている人。なぜなら、パコー族の言葉を勉強し、お母さん研修に参加して、母乳育児の知識を身につけたかどうか母親一人ひとりに問いかけるからです。「何度も質問をしてみます。もし彼女たちが黙ってしまったら、それは彼女たちが悪いのでなく、私たちの教え方に問題がある可能性が高い。例えば、『肉や魚にタンパク質が含まれる』と説明しても、少数民族が暮らしている場所に存在しなかったり、高価で手に入らない場合もあります。ですから、他にどんな食べ物からタンパク質を補えるか、台所に立つこともあります」とヒエンさん。「いつも試行錯誤の繰り返し。特にダクロン郡は貧しいので、夫が出稼ぎに出てしまうと妻が家を守らなければならず、母乳で子育てするのもままならない人もいます」でも、少しずつ確実に母乳育児は広まっているそうです。「SCには、これからも一緒に子どもの栄養改善に取り組んでほしいです」



ダクロン郡アブン村の研修で、母親に問いかけるヒエンさん。



村の診療所。最近みんな、健康診断に来たがるそうだ。



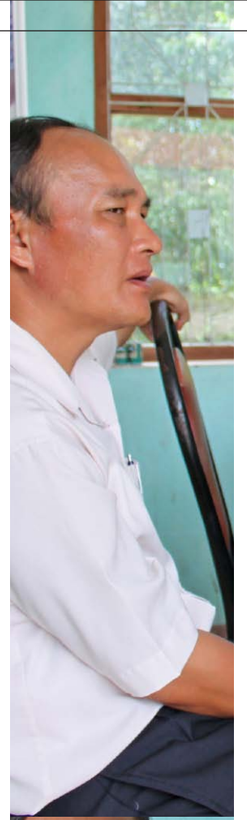
研修で使われているイラスト教材



これらで身長と体重を測ります。



お母さん研修で参加者に配る栄養タブレット。女性の栄養不良を予防します。





more Information

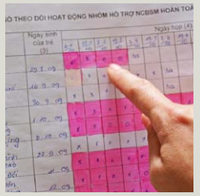
支援地のこと。少数民族のこと。

ベトナム中部のクアンチ省フォンホア郡へは、首都ハノイから中部の古都フエまで飛行機で南へ1時間、そこからさらに車で約3時間半、西へ移動します。もう1つの支援地ダクロン郡は、さらに山をのぼり、隣国ラオスとの国境沿いに位置します。フォンホア郡の人口、約77,000人。ダクロン郡、約37,000人。少数民族が多く暮らし、バンキュー族とパコー族の生業は主に農業で、水稲、焼畑による陸稲、サツマイモ、キャッサバ、果物などを収穫。このベトナム中部地域は毎年、台風などの自然災害が起きやすく、地域の人々の食糧確保が課題となっています。



母乳育児を広める活動のこと。

世界保健機関(WHO)の資料などによると、女性が出産してから、初乳にはじまり産後6ヶ月のあいだ、母乳だけで子どもを育てると1年間に世界で100万人の新生児を救えると言われており、SCも、この完全母乳育児を支援しています。母乳育児の方法はもちろん、たとえば、初乳を絶対に捨てずに赤ちゃんに与えること、6ヶ月間は母乳以外を与えないこと、また離乳食を与える時期や栄養のある食事のつくり方など、1回のお母さん研修につき1つのテーマをじっくり教えていきます。参加するのは、妊婦と生後6ヶ月までの赤ちゃんのいる母親で、赤ちゃんが6ヶ月になると卒業し、入れ替わりで新しい妊産婦や母親たちが研修に参加します。「OPPAI PROJECT」で支援したのは2009年11月から13ヶ月間、フォンホア郡とダクロン郡の村70村。支援を開始した際、2歳未満の子どもの栄養状況について調査したところ、調べた769人のうち44%が発育不全と分かり、6ヶ月間の完全母乳育児率はわずか14%しかありませんでした。今回の活動で、どれくらいの人に母乳育児が浸透したか、写真の出席表70村分を現地で集計中です。次回アニュアルレポートで結果をお伝えしたいと考えております。





＊：SCJの別の保健・栄養事業地。外務省 日本NGO連携無償資金協力、国際協力機構(JICA)、トヨタ財団助成



SCの提供した安全な遊び場で、本を開く女の子

© Susan Warner/SC

Haiti
［ ハイチ ］

大地震の発生から1年が経過。
5ヶ年計画をたて、支援を継続中です。

２０１０年１月の大地震から１年が経過し、SC全体でいただいたご寄付は約７０億円にのぼります。５０万人の子どもをふくむ約８７万人に対して支援を届けています。昨年後半のコレラの蔓延、大型ハリケーンと洪水の発生により、想定を上回る支援をこれからも必要としており、SCでは５ヶ年計画をたて、保健・栄養、教育、シェルター、水・衛生、子どもの保護などの分野で包括的な支援を続けていきます。



現地に無事に納品された水・衛生キット

Myanmar
［ ミャンマー ］

サイクロンに被災した2,040世帯へ、
水・衛生に関する物資を配布しました。

２０１０年１０月の大型サイクロンの襲来により、村の８０％以上の家屋が半壊または全壊したとされるラカイン州ミエボン・タウンシップで、村民２，０４０世帯、９，４４８人に対して、家庭用水・衛生キットの配布を実施。今年１月１０日に配布を完了しました。水・衛生キットには、ろ過器、貯蔵用バケツ、蚊帳、石鹸などがふくまれます。キットの配布時に、水の保存方法や手洗いなど、水に関する衛生教育も行いました。



巡回チームの活動の様子

Sudan
［ スーダン ］

５歳未満の子どもとその母親の、健康と
栄養状態を改善する活動を展開中。

国全体で１０人に１人の子どもが５歳の誕生日を迎えずに亡くなっているスーダンで、村々をまわって子どもを診療する巡回チーム、栄養指導員、治療センターで働く各職員を面接・採用しました。巡回チームは、腕の太さを測って子どもの栄養状態を見分けます。栄養不良と診断された子どもは、定期的な巡回診療と栄養食の配布を受けます。合併症のある重度の栄養不良の子どもは、建設中の集中治療センターに運ばれ、治療を受けます。



自分の夢を託して、キャンドルメッセージに参加

Japan
［ 日本 ］

ストップ子どもの貧困
“Speaking Out Against Poverty(SOAP)”を展開中!

2010年11月に啓発イベントを実施し、800名以上が参加。“７人に１人の子どもが貧困”という現実に対し、「貧困は無限の可能性を持つ子どもの機会を失わせる」「貧困自体も問題だけど、それを解決しない・しようとしないことも問題」「子どもの声に耳を傾けたい」「現状を伝えていきたい」等、多くの声があがりました。今年4月にはヒアリング調査に参加した100名の子どもたちの声を冊子にまとめ発信します。

［動画配信中］ http://www.youtube.com/user/SpeakingOutCh



子ども広場で遊ぶ子どもたち

Pakistan
［ パキスタン ］

水害発生から6ヶ月経過。
昨年の11月に緊急支援を開始しました。

２０１０年７月に発生した大洪水で、被害の大きいパンジャブ州で、被災した子どもたちを心身の危険から守るために、４０ヶ所に子ども広場を設置しました。食料や生活必需品の調達、住居の修復に忙しい保護者に代わり、子どもたちを適切に守り、心のケアをし、彼ら彼女たちが心身ともに健全に復興へと向かうことのできる環境を整えています。また、今年1月から子どもたちに冬用の衣類、学用品、衛生キットを配布しています。



支援を受けた子どもたち

© Patricio Luna/SC

Chile
［ チリ ］

地震で被災した子どもへの支援が完了。
皆さまからのご支援に心から感謝申し上げます。

２０１０年２月２７日に発生した大地震。SCはチリ国際連合協会と共同で、マウレ州カウケネス県を支援し、２０１０年９月末に活動を完了しました。いただいたご寄付はSC全体で８，７２６万円にのぼり、子どもをふくむ３９，２７７名を支援することができました。安全な遊び場の提供、子どもたちの心のケア、水・衛生環境の整備、冬に向けシェルター（住居）の補強、子どもの保護について大人への啓発を実施しました。

今回お伝えしたスーダン、パキスタン、ミャンマーの活動は、ジャパン・プラットフォーム（JPF）から助成を受けています。

■各国活動の進捗・報告

活動国における支援の進行状況や
結果などについて、その一部をお知らせします。
今回は、約1年前に大地震が発生した、
ハイチやチリへの支援など、自然災害に対する
緊急支援についての情報を中心にお届けします。



Save the Children JAPAN

＊みんなの広場＊

ニュースレターをリニューアルしました。私たちの活動をもっと丁寧にお伝えし、皆さまに共感いただきたい。
また、支援先の子どもや周りの人々を身近に感じていただきたい。そんな願いを形にしています。
この「みんなの広場」では、皆さまからのご質問やメッセージ、またＳＣＪからのお知らせなどを掲載してまいります。

Ｑ：「各国の活動の進行状況をもっと詳しく知りたいです。」

Ａ：ホームページの活動報告ページで、各国担当者が支援の状況などを随時お伝えしております。
ニュースレターだけではお伝えしきれない情報も掲載しておりますので、こちらもご覧ください。
http://www.savechildren.or.jp/sc_activity

Save the Children JAPAN

ご支援者の皆さまへ

ご住所、電話番号、メールアドレスなど、
ご変更がありましたら、弊会の
「ドナーサービス係」まで必ずご連絡ください。
電話番号は裏表紙の下、メールでのご連絡は、
donation@savechildren.or.jp宛に
よろしくお願いいたします。

Save the Children JAPAN

Ｑ：「お金ではなく、何か簡単にできる支援はありますか？」

Ａ：宛先や文面を間違えて出せなくなったり、
使わずに眠っている年賀はがきや
官製はがき、切手はございますか？
「書き損じはがき」や「未使用はがき・
切手」をお送りください。SCJの住所は裏表紙の下、
「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
書き損じはがき係」宛にお願いいたします。
ＳＣＪの活動費として活用させていただきます。

Save the Children JAPAN

ＳＣＪも、ツイッターでつぶやいています。

ＳＣＪも、ツイッターでつぶやいています。
ＳＣＪ全体に関わる情報は「scjapan」、
グローバルキャンペーン「EVERY ONE～
５歳の誕生日を、子どもたちに！～」の
情報は「akachan5」で随時つぶやいています。
ぜひフォローとリツイートをお願いします。
http://twitter.comで
上記のアカウントを検索ください。

Save the Children JAPAN

＊「みんなの広場」へのご投稿について＊

文章の長さは問いません。郵便か電子メールでお送りください。氏名を明記ください。掲載の場合は一部編集させていただくことがあります。実名掲載が不可の場合、一筆お書き添えください。送り先は裏表紙、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン ニュースレター編集係。
メールアドレスはvoice@savechildren.or.jpです。いただいた個人情報は責任を持って厳重に管理させていただきます。



編集者のコラム

自分のことを人が褒めてくれたら、いくつになっても嬉しいもの。
子どもだったら、なおさらだと思うのです。
モンゴルのオデュムンへくんは13歳。SCのチャイルドセンターに通う男の子です。
年末、オデュムンへくん自身が描いた絵が、伊勢丹新宿店のご支援でケーキに再現されました。
そのことを、モンゴル人スタッフを通じて本人に伝えたところ、とても喜んでいたとのこと。
「自分のことが認められたことに、誇りと自信を持ったんじゃないかしら」という
現地スタッフからのメールが、子どもを支援するにあたって
大切なことを改めて気づかせてくれました。
そう、子どもが自信をもつようなサポートを大人がすること。
子どもの良い面を見つめて、そこを引き伸ばしてあげること。その姿勢を忘れず、
今年も仕事に励めればと思うのです。

SCJニュースレター担当／岡田茜

1



2



3



1.オデュムンへくんの絵。 2.絵を再現した伊勢丹新宿店カフェ・エ・シュクレのケーキ。 3.モンゴルでも、ケーキになった！写真がオデュムンへくん。

Stakeholder Interview & Information

＜特別インタビューとお知らせ＞



銀座 SINCE1892 **日新堂**

株式会社日新堂　代表取締役社長
佐川　黎二様

「若手社員の社会貢献を見守っていきたい」



東京銀座の老舗として、時計販売を手がける日新堂には、オリジナル時計の企画・販売を通して、ＳＣにご支援をいただいています。名だたる時計ブランドと並べて、ＳＣモデルの時計を販売してくださっている訳を、佐川社長にお聞きしました。「2008年に、銀座に店を構えて60年という節目を迎えた際、会社の理念について考え直す機会をつくりました。その時に若手社員から挙がったのが、理念の中に会社の社会貢献を取り込むことでした。このことがきっかけで、『お客様と共に憧れと豊かな未来を創造します』という言葉が、私どもの理念に加わったのです。」この「未来の創造」のために、社員の方がＳＣを見つけてくださいました。社員の熱心な社会貢献活動を、会社のトップとして見守っていきたいという佐川社長。「SCには、どうしても活動を続けていただきたいですね」と、激励の言葉をくださいました。時計の販売に限らず、ＳＣの理念なども精力的に広めてくださっている日新堂に改めて感謝を申し上げたいと思います。

CHINTAI、スリランカの子どもたちの教育を支援

株式会社CHINTAIからは、アパートやマンションのオーナーの方々および企業と一体となり、教育インフラの整備が遅れるスリランカの小中学校の校舎の修繕、教室備品の購入・配布や教員研修といった教育分野でのご支援をいただいています。



http://www.chintai.net/csr/index.html

東急ハンズ、手作りイベントで子ども支援

東急ハンズには、2010年11月より各店（名古屋店・名古屋ＡＮＮＥＸ店を除く）で実施される一部の手作りイベントで、参加費の10％をご寄付いただいています。また2011年1月15日より、ハンズクラブカードのポイント交換の対象にもＳＣＪへの寄付を加えていただきました。1,000ポイントを1,000円分の寄付に交換することができます。



http://www.tokyu-hands.co.jp

無印良品、ネットストアで募金開始

無印良品は、ネットストア上で10円単位の募金ができるしくみ「無印良品の募金券」を2月下旬より開始します。募金券の売上額を、「子ども支援」のSCJをはじめ、「地球環境」「女性」「地域社会」をテーマに活動する6つの非営利活動団体にご寄付いただきます。自分の納得した寄付先に、少額からでも簡単に寄付ができるという新しい募金のしくみのご提案です。



http://www.muji.net/store

発行：社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F　ご支援に関するお問い合わせ　03-6859-0068（平日 9:30-18:00）

2011年2月発行　印刷協力：星光社印刷株式会社